

# 古高取通信

令和4年7月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1. 活動の拠点を創る
2. 古高取の知識を深める
3. 古高取の魅力を伝える
4. 次世代へつなげる

## 古高取を伝える会会報



### 目次

2022年度定期総会	2
活動の記録	5
なんでも掲示板	6
ダイジェスト	8
お知らせ	10

昔の記憶を辿って考える

福岡県職員時代の一時期、福智山ダム  
の建設に携わったことがあります。

高取焼内ケ磯窯跡の2期目の発掘調査  
の時期とも重なりました。発掘された窯  
跡の規模に圧倒された記憶が残っていま  
す。

直方市の「福智山麓総合開発計画」の  
中に、高取焼の歴史を生かした「焼き物の  
里づくり」として地元の期待の大きい事業  
がありました。

現在の高取焼宗家十三代八山さんが、  
若いころ高取焼発祥の地で、窯を開きた  
い、という話もありました。

地元の人達の熱い想いもあり、もっと  
皆で力を合わせれば、高取焼資料館や登  
り窯の復元も不可能ではなかったのでは  
ないか、との思いがよぎります。

鞍手町の井手川泰子さんより、「鞍手町  
歴史民俗資料館」建設の顛末を聞く機会が  
ありましたが、その苦労に頭が下がりが  
ました。私たちも諦めずに、粘り強い活動  
を続けていきたいと思えます。

隅田知明

## 2022年度定期総会

〈令和4年5月15日(日)〉  
場所…直方市中央公民館

2階第1学習室

記念講演…佐賀県立九州陶磁文化館  
館長 鈴木由紀夫氏  
「唐津焼と高取焼について」

2022年度の定期総会は、事業経過報告・決算報告・事業計画(案)・予算(案)について滞りなく承認いただきました。出席者17名でした。



### 会長挨拶

隅田 知明

コロナ禍により二年間総会を中止しましたが、今年度は、直方市長、福岡県議会議員、直方文化連盟会長の三氏を来賓としてお招きし、三年ぶりの開催となりました。

一〇周年を機に、新たな三つの課題も、コロナ禍にかまけて先送りしてきた感もありますが、実現に向け新たな一歩を踏み出したいと思っています。

さらに、活動の輪を広げるため、地元の陶芸家との連携を深めてまいります。



### 来賓挨拶

直方市長 大塚進弘

コロナ禍で活動がままならない中、3年ぶりの総会の開催誠に御めどうございます。この間、子供たちのマイ茶碗づくりなどご尽力を頂き感謝申し上げます。

今、私の心配事は、伝統をリアルに繋いで行くという意味で、後継者問題などの厳しい状況にある、直方の窯元の行く末です。持続可能な形で、どう高取焼の伝統をつないでいくか考えていかなければなりません。古のものを研究し伝えるだけでなく、今を生きる工芸家と連携しながら振興を図っていただく事も重要だと考えます。

また、今日は九州陶磁文化会館の方のお話がありますが、高取焼関連の資料の展示を行う資料館の建設も重要課題だと考えています。様々な行政課題がある中、ソフト面の取組と合わせて、将来の課題として検討して参ります。

結びに、貴会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ挨拶いたします。

### 来賓挨拶

福岡県会議員 香原勝司

本市の誇るべき遺産「古高取」の継承に感謝します。400年の歴史を持つ高取焼。直方の地で作陶された、「古高取」と呼ばれる僅か20年ほどの間に美術的価値が極めて高い名品が作り出されました。高取焼の「黄金期」と言ってもよいと思います。一方、福岡県が事業主体である福智山ダム建設により内ヶ磯窯跡はダムの中に沈んでいきます。歴史と市民生活との共存の難しさを感じるどころです。

私はこの「古高取」を始め、城下町、石炭、鉄道のまちとして栄華を誇った本市遺産の展示を行う歴



史資料館建設は何とか実現したいと考えています。

結びに、貴会に「古高取」を今後  
も力強く継承していただき、住み  
暮らすこの地を「誇り」に思える  
市民で溢れることを期待し、挨拶  
といたします。



### 来賓挨拶

直方文化連盟会長 能間 瀧次

古高取を伝える会の総会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

設立総会は、平成20年3月28日、14年経過し、現在に至っております。

設立にあたっては、高取焼発祥の地、宅間、内ヶ磯の両窯跡を有



する直方市で、平成18年高取焼開窯400年祭が官民一体となって実施されました。終了後も多くの方々から、この活動を一年で終わらせず、継続して欲しいとの声が寄せられ、その思いをしっかりとないでいきたいということで、この会が設立されたものです。引き続き高取焼の保存、継承活動を継続されている伝える会の皆様の活動に敬意を表すものです。

小学6年生のマイ茶碗づくりも活動の中心となっており、今年も1万個達成の偉業が成されるのではないかと期待しているところで

す。文化連盟も連携を深めながら、直方市の文化発展へ務めていきたいと思えます。

### 記念講演

佐賀県立九州陶磁文化館 館長  
鈴木由紀夫氏をお迎えして

副島 邦弘

本年の総会後の特別講演会として参加者40人であった。

講師に佐賀県立九州陶磁文化館館長鈴木由紀夫先生を迎えて『高取焼と唐津焼について』という演題でお話をいただいた。

先生にはA4資料12枚(含表紙)のレジュメとパワーポイントでスライド20枚を併用して講義された。その講義の内容は、つぎのような項目でまとめられていた。

表紙

- (1) 名称について
- (2) 技術について
- (3) 手回しロクロと蹴りロクロ
- (4) 製品種の相違点(茶入れの成形・糸切りの回転)
- (5) 窯業の共通点と相違点
- (6) 佐賀藩の窯業
- (7) 肥前国の窯業の共通点と相違点
- (8) 佐賀藩と唐津藩
- (9) 初期の窯跡分布図
- (10) 佐賀県内の登り窯跡数
- (11) 茶陶重視の高取焼  
(パワーポイント使用)

その要約は、次の通り

(1) 肥前国は佐賀県と長崎県を含んでいる。

唐津焼(古唐津) 江戸時代の肥前陶器の総称。伊万里焼(古伊万里) 江戸時代の肥前磁器の総称で十七世紀から十九世紀にわたる。

それ以前は、抹茶をたててお客に供応する風習は鎌倉時代にかけて日本人の生活の中に浸透していった。そのため喫茶に用いられる茶碗は、最初は唐物(中国製)で貿易陶磁として、天目茶碗や青磁であった十六世紀の後半に千利休が侘茶として大成させると次第に唐物に替わって、素朴な味わいがある高麗物(朝鮮製)が茶陶として用いられるようになっていく。

そもそも利休がめざす茶の湯とは質素な侘びずまいで静かにお茶を飲むというところにあって、当時朝鮮半島で日用雑器として制作されていた焼物であった。なかでも、その主役の座を占めていたのが「高麗茶碗」であった。

豊臣秀吉の二度にわたって朝鮮半島を侵略した文禄・慶長の役が慶長三年(一五九八)に秀吉の死によって終止符が打たれると、これに参陣した西国大名の中には多

くの朝鮮人陶工を連れ帰って領内に焼物窯を築かせて作らせた。当初は、これらの窯で焼かれたものは朝鮮で作られていた灰釉を基調としたもので、今日肥前地方で一般的に唐津系陶器と呼ばれているものです。

(2) 中国からの貿易品は南京焼と称されて巷の名称である。日本では唐津系陶器は唐津焼といわれる。また伊万里港から出されたものは伊万里焼と称されている。それが明治30年からは鉄道を利用したので伊万里焼から有田焼と称され、現在の有田焼となっている。これは高取焼にも言える。すなわち筑前焼と称せられた範囲と高取焼の名称は寛永三年(一六二二)の黒田忠之の文書に出てくるので領内の狭い範囲あったと考えられませぬ。忠之はブランド化をはかるため小堀遠州の指示を受けたわけで、筑前の領民はこれらの焼物を高取焼と称し、茶道具や日常の器をつくった内ヶ磯の時期に該当する。高取は織部好みから遠州好みの二つの様式美があるわけで、初期のころは古田織部に通じ、小堀遠州の指導を受けて茶陶として存在していくわけです。



(3) はその技術は蹴りロクロとタタキ技術で青海波を中心にするタタキは一六三〇年以前で、それ以後は格子目を叩き板使う。

(4) 茶入れ成形の糸切り回転には成形の左回転(茶入が特例)他の器物は右回転である。唐物の茶入は左回転の糸切りで内釉なし、右回転の糸切り(和物切り)で内釉ある。九州の成形は右回転で左削り(小石原焼は例外的に左回転)、蹴りロクロは回転を変えやすい特性をもっている。

(5) では唐津・高取・上野・薩摩焼は一五八〇〜一六〇〇年代に創業している。高麗茶碗は朝鮮か

ら輸入品を国産化したとして日用雑器の器皿や甕等も欲しいため朝鮮陶工を連れてきて原料は地元伊万里焼(有田焼)の土を使った。伊万里焼(有田焼)の起点は一六一〇年代に創業し、磁器は中国から輸入品で国産化した技術は朝鮮陶工を連れてきた。その後色絵技術は中国から技術がはいってくる。原料の土は泉山の陶石を得、呉須は長崎で中国から輸入される。長崎港は肥前鍋島藩と筑前黒田藩が番役として天領として長崎を守護している。九州の有力藩は当地に屋敷を営んで、貿易品の購入を行った。幕府への献上品として各藩との交際品としていた。

(6)・(7)・(8) は佐賀藩の領地は三十七万石で、その内を十二

(9) 初期の窯跡分布図では、一五八〇〜一六一〇年代陶器窯で位置図は岸岳系・松浦系・武雄系絵唐津・多久系で所謂唐津と佐賀本藩(鍋島藩)と、一六〇〇〜一六五〇年代の陶器窯と磁器で、武雄系(二彩唐津等)と本藩との分布が移っている。

(10) 現在の佐賀県内の登り窯跡数は陶器生産窯(唐津焼)146・陶器磁器(伊万里焼)生産窯74・磁器生産窯93合計313であった。

(11) はまとめとして高取焼の流れと介在している小堀遠州の影響を生産品に遠州好みのブランドを得た藩主黒田忠之に神屋宗湛等を利用して茶陶高取として天下を自ざしたと結ばれている。

学習部会の結論としてまとめると、唐津焼とは肥前国では陶器全体の名称で、伊万里焼は磁器全体の名称であった。生産場所から唐津港から出されるものは陶器で、伊万里港から出される生産品は磁器であり、現在是有田焼として鉄道や自動車(トラック)で出荷されている。

鈴田先生ありがとうございます。

## 活動の記録(令和四年一月～六月)

### 理事会

#### 「第十回」

〈令和四年一月十日(月)〉

#### 「第十一回」

〈令和四年二月七日(月)〉

※コロナ対策のため中止。

#### 「第十二回」

〈令和四年三月七日(月)〉

#### 「第一回」

〈令和四年四月四日(月)〉

#### 「第二回」

〈令和四年五月九日(月)〉

#### 「第三回」

〈令和四年六月六日(月)〉



### 焼物部会

#### 「第一回」

〈令和四年六月三日(金)〉

場所…直方北小学校

#### 「第二回」

〈令和四年六月十七日(金)〉

場所…直方東小学校

#### 「第三回」

〈令和四年六月二十四日(金)〉

場所…下境小学校

※このほか、七月以降に実施の予定です。



### 学習部会

学習部会は、十月からの実施予定ですので、「お知らせ」のページで紹介します。

### 広報部会

#### 「第一回」

〈令和四年六月六日(月)〉



●現地視察(窯元訪問)に参加して  
〈有田焼窯元〉  
〈令和四年三月二十一日(月)〉  
場所…有田地蔵

古高取研修講座のまとめで有田窯元巡りに参加しました。有田に到着するなり昼食。入ったレストランにはガラス窓や壁一面にコーヒーカーップ(皿付き)が。圧巻でした。入り口に置かれた車には有田焼の器に描かれているような鮮やかな絵柄がかき込まれていました。さすが有田、焼き物の町ですね。

① 今右衛門古陶磁美術館見学  
初期伊万里、古伊万里、初期赤絵、江戸時代の製作道具、鍋島藩御用窯で作られた鍋島コレクションなどが展示されていました。特に11代から13代にかけてのそれぞれの個性的な焼き物が順に飾られ、もちろん人間国宝の14代今右衛門の作品もありました。江戸時代には鍋島藩への献上品として造られた色鍋島の御用絵師を継承してきた窯元ですが、廃藩置県で御用窯というのとはなくなりました。窯元さんの肩にかかった重圧というのがどれほど大きかったのか、そんなことに心を巡らせながらの見

学でした。

### ② 天狗谷窯跡見学

17世紀操業で李参平のゆかりの窯で、現在は国指定の史跡になっています。30mほどの登り窯跡を上ってみました。窯の下方は焼物の失敗品の捨て場になっていて、碗や瓶の欠片が相当の量捨てられました。完成品の規格がとてもしびしかなかったのでしょうか。

また、裏通りを歩くと、登り窯の耐火煉瓦の廃材や陶片を赤土で固めた土塀がありました。不規則に積み重ねたもので風化していて、それはもうとても美しい色合いを醸しています。(トンバイ塀というそうです)

### ③ 李参平像の見学

「有田焼の陶祖」と呼ばれていますが、真っ白の座像でした。なぜ、こんなに白いのか。不思議です。

### ④ 泉山磁石場

すり鉢のように採掘された跡があり、大きな洞穴が二つ、掘り残されたかのようにぽっかり。これは、朝鮮人陶工、李参平が良質で豊富な量の陶石を発見し、大量生産へつながりました。最高級のものは御用土と呼ばれ、大名や、献上品を作るために、また、商人が

買い求める土、庶民が使う器の土とランクがあったそうです。天狗谷窯は御用窯であったため上等の土が使われたということです。説明板には「一面に霜雪を敷きたる如し岩床」とこの磁石場を見つけた時の感動を表していると書かれている。より白い磁器を作ろうとして白い岩石を探し続けていたという。その思いに応えたのが李参平の白い座像だったのか。

歴史をさかのぼるように歩き、有田陶器市しか知らなかった私にはとても面白い散策でした。

倉田豊子

### ● 陶芸教室に参加して

↳ 地域対象焼物教室

〈令和四年一月十一日(火)〉

場所：鞍手幼稚園

幼い頃、土に水を混ぜた土粘土でお碗のようなコップなようなものを作って遊んだ記憶があります。今回、鞍手幼稚園の陶芸教室で真剣な目で取り組んでいる園児さんにそれを思い出しました。

コロナ対策として各教室で少数でのマイ茶碗づくりです。

園児さん一人一人の表情を見ながら、伝わるようにゆつくりと話をします。

純粹無垢というか素直というか、見る見るうちに上手に出来上がりました。

ご父兄の方々との陶芸教室、何か思い出になれば嬉しいですね。

高取焼は直方市の鷹取山麓で、はじめられた福岡を代表する焼き物です。

1606年直方市永満寺宅間窯から始まり、1614年内ヶ磯窯へと、以後現代に至りますが、今の直方があるのは高取焼があったから、この地に福岡藩の支藩、東連寺藩(のちの直方藩)がそして城下町が形成されていった。と言えるのではないのでしょうか。

橋本晴美



## なんでも掲示板

### ● 現地視察ツアーに参加して

↳ 有田地域

〈令和四年三月二十一日(月)〉

場所：有田地域

9時直方中央公民館を出発。高速度を通り昼頃には有田の「美術館」到着と思いきや「ギャラリー有田」と云うレストランでした。入室しますと部屋の周りには、このギャラリーと言う名の由縁と思われる2000個以上の有田焼のコーヒー茶碗が周りを圧倒。客の指定でどの茶碗でも使用できるそうです。食事の弁当箱も全て有田の磁器で創られた器でした。早速、楽しい昼食です。

さて、腹ごしらえも終わり、有田内山へ。街並みを楽しみながら道端の水仙や白の沈丁花の香りに導かれながら、今右衛門古陶磁美術館に到着。

2階展示室には歴代の今右衛門の赤絵磁器の作品が展示され、その継承と工夫の技法や転写技法のプロセスが解り易く説明されました。十三代今右衛門(1926年〜2001年)による染付吹墨・



天狗谷窯跡の上から

薄墨吹墨の技法を創作されたところ十三代の刻苦努力の成果であったろうと思いを馳せました。芸術家の人生はいつも感動的です。更に2階に網代天井の茶室（三畳台目）が設えてあり、黒漆の長板には今右衛門作赤絵磁器の豪華な水指・柄杓立・建水等が飾られています。

美術館を出てトンバイ堀（登り窯の耐火レンガの廃材を赤土で塗り固めた堀）で連なった楽しい裏通りを散歩よろしく訪ねまして白磁ヶ丘公園に到着。公園では鳥たちの囀りや河津桜がひと足早く咲いて、早春の穏やかさで私たちを

迎えてくれました。さて、有田町の陶祖「李参平氏」の像との出会いを楽しみに階段を一足一足登りますと屋代があり、その中に端正な顔立ちと白の朝鮮伝統の衣装姿で端座され、厳肅に私たち一行を迎えて戴いた。「参平氏」は節くられた大きな両手を前で握っておられる。この大きな手から白磁が生まれ、世界の多くの人に感動を与えた美術品が創作されたのだ。1598年文禄慶長の役に朝鮮から連れてこられた陶工たちの努力と探求心は、望郷の念もある中で、良い磁石土探しに唐津周辺で奔走された。

ようやく出会えた磁石土との巡り合いは、言葉に託せない深い感動であった事でしょう。それにしても「参平像」は白磁で創られたものである、見事な「参平像」です。李参平氏の子孫にあたられた方の作品ではなからうか。

屋代の右方奥には、磁石土を取られた跡は懸崖となり粗々しい姿です。ふと見ると崖の上方に、方形に掘られた洞に仏像が祀られておられました。続いて泉山磁石場跡を望むと立ち入り禁止のロープの向こうには、二つの坑道があり



陶祖「李参平」像

鬼の面構えのように見えた。400年の間に1つの山を削るとここまでのなるのだ！

畏怖と同時に寂寥な感覚を抱いてしまった。白磁土は、成型し焼かれて芸術性も高く人に楽しみや感動を与えたものであるが、その跡は青々とした緑の山が何と無残な姿になっているのか。私には人間の持つ創造性と破壊性を垣間見たような気がする。だから「崖の洞に仏像」なのだと独り言で自分を慰めた。

最初に天狗谷窯跡に向かいました。山の斜面を利用した登り窯で、説明書きでは21室、距離70m、高低差が21mの規模で当時最大の登り窯であったそうです。時代は江戸前期であり、陶祖「参平氏」や陶工たちが、活躍した時代と重なります。窯跡を登り詰めると下方



泉山磁石場跡

に数軒の家屋がよく見える。400年前のこの場で陶工たちが気合を入れて焚物をくべたり火勢の様子を見ながら汗水を流し格闘する姿を想像するとこの場所の時を越えて、息遣いさえ聞こえてきそうに感じられた。

階段を下って行きますと途中の窯跡の段の角に清新な紫のロジスマイレが可憐に咲いている姿にホッと安堵感と春の到来を感じて指先で軽く撫でてみた。

17時頃、運転手さんの安全運転で無事直方中央公民館に帰着。有難うございました。また重ねてスタッフの方々のお世話、誠に有難うございました。雨の予想でしたが、降らずに最高のツアーでした。

吉野繁則

●金剛山もととり広場に

お越しください

～金剛山もととり保全協議会～

〈令和四年六月～〉

場所：金剛山もととり広場

金剛山もととり広場は、直方市の所有地を市民団体（金剛山もととり保全協議会）がボランティアで維持・管理をしています。

この広場は、27年前くらいより地元の武内保氏（現在87歳）があじさいをコツコツと挿木で育てた苗を配色を考えながら植付けし約3600株になり、あじさい園としても知られています。

里山に思い入れの強い平均年齢75歳位の者たちが毎週土曜日を作業日としてコロナに負けず自然の中楽しく作業をしています。

古高取を伝える会のメンバーも参加していますが、この活動にご



理解をいただき関係スタッフにお声をかけていただければ嬉しいです。

あじさい園一同

ダイジェスト

●子供焼物教室（焼物部会）

〈令和四年一月～六月〉

場所：直方市内の小学校

令和四年度も市内11の小学校すべてで焼物教室を実施予定です。

前期（8月）までに6校、後期5校で実施し、出来上がった茶碗でお茶会をされる学校もあります。

毎年、先生や子供たちが頑張らている様子で、この時間を楽しみに待っていてくれます。

私たちが元気をもらう時間でもあります。

「第一回」

〈令和四年六月三日（金）〉

場所：直方北小学校

「第二回」

〈令和四年六月十七日（金）〉

場所：直方東小学校


「第三回」

〈令和四年六月二十四日（金）〉



場所：下境小学校









焼き物教室を開いてくださったみなさんへ  
 今日はコロナの中なのに来ていただき  
 ありがとうございます。そして高取焼きの  
 作り方や歴史を教えてください本当にあり  
 がとうございました。みなさんのおかげで  
 高取焼きの歴史を深く知ることがで  
 きました。最初は高取焼きが作られたと  
 ころはどこかなと思ったり直方だったとて  
 もびっくりしました。みなさんが焼き物教室を  
 開いてくれたのかわからないままです本当に  
 ありがとうございます。 藤田 紘斗より



高取焼きを教えてください方々へ  
 今日は、高取焼きのつくり方などを教え  
 ていただきありがとうございました。  
 私は、ほいくさんのころ1回つくったことがあり  
 ましたが、こんなに本格的な高取焼きをつ  
 くるのは初めてでした。ありがとうございます。  
 私は、この高取焼きを作って、私は高取  
 焼きの伝統を教わって色々知るこころ  
 えました。お茶会があるかはわかりませんが、こ  
 のしめにしていきます。

沖島 伶奈





高取焼作りを手伝ってくださったみな  
 さんへ、高取焼の歴史や作り方を  
 おしえてくださり、ありがとうございます。  
 私はこの学習で心をこめて物  
 を作るということを学びました。  
 最初の説明のときに、高取焼を大  
 事に行っていることがとても伝わってきま  
 した。先生方が前で作っているときは、  
 簡単そうに見えたけど、実際作ってみると  
 とてもむずかしくて、びっくりしました。これから  
 も、高取焼の活動をかんはってくださ

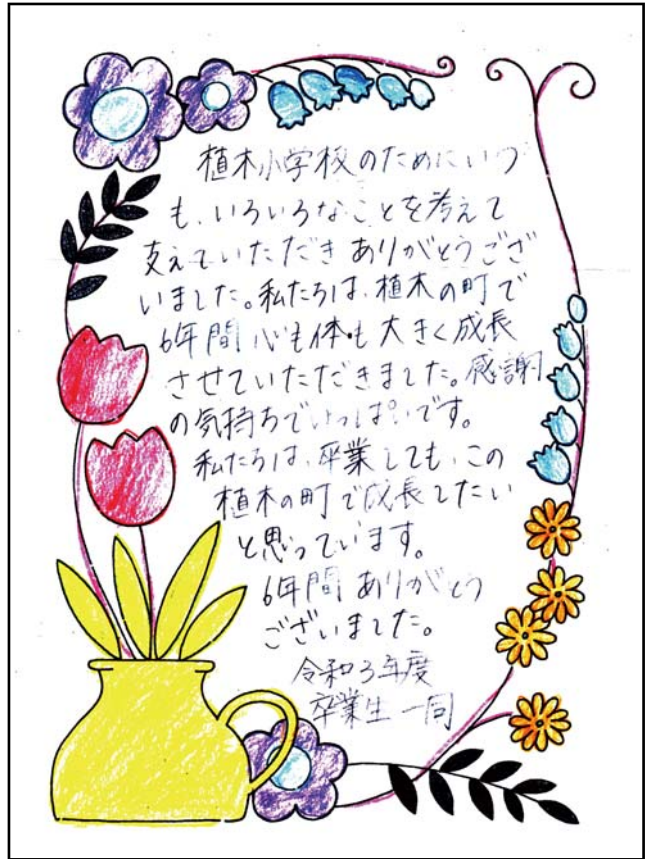
牧実花

高取焼のみなさんへ  
 ありがとうございます😊  
 しぼくは、初めて火焼き牛乳を作  
 りました。手がどろどろでよごれたけ  
 どどろのかんしゃくが、冷たくて、  
 気持ち良かったです。また作りたい  
 ので、教えてください、ありが  
 とうございました。  
 児玉 心より



植木小学校の卒業生からお手紙をいただきました。



## お知らせ

### ● 子供焼物教室

令和四年度、市内小学六年生対象焼物教室の七月以降の予定は次のとおりです。

#### 「第四回」

〈令和四年七月五日(火)〉  
場所…中泉小学校

#### 「第五回」

〈令和四年七月六日(水)〉  
場所…直方西小学校

#### 「第六回」

〈令和四年九月十六日(金)〉  
場所…上頓野小学校

#### 「第七回」

〈令和四年九月二十九日(木)〉  
場所…新入小学校

#### 「第八回」

〈令和四年十月十四日(金)〉  
場所…感田小学校

#### 「第九回」

〈令和四年十月十八日(火)〉  
場所…植木小学校

#### 「第十回」

〈令和四年十一月二日(水)〉  
場所…福地小学校

#### 「第十一回」

〈令和四年十一月十五日(火)〉  
場所…直方南小学校

### ● 高取焼基礎研修講座

令和四年度、高取焼基礎研修講座は次のとおりです。

#### 「第一回」

〈令和四年十月十三日(土)〉  
テーマ…千利休の系譜

#### 「第二回」

〈令和三年十一月十九日(土)〉  
テーマ…古田織部の系譜

#### 「第三回」

〈令和四年十二月十七日(土)〉  
テーマ…小堀遠州の系譜

このほか、現地視察(窯元訪問)ツアーを来年実施の予定です。詳細は別途ご案内致します。

### 子供焼物教室を体験した感想をお寄せください

マイ茶碗づくりを経験した子供たちも二十歳を迎える茶碗づくりをどう思っているでしょうか。

茶碗づくりや歴史学習を通して趣味や関心は広がったでしょうか等、マイ茶碗を持っている方々の現在の思いをお知らせください。

### 〈編集後記〉

コロナウイルス流行から3年以上が経過しても、なかなか流行の終息が見えない状況が続いています。そんな中、私個人としても、これからは何事にもウイズコロナで対処していかなければならないと思います。

会報発行につきましては、皆様が見やすいように考えたいと思いますので、ご意見・ご要望等ありましたら、遠慮無くお申し出ください。

皆様、よろしくお願ひします。

### 「古高取通信」会報・NO 35

#### 〈発行〉

古高取を伝える会

#### 〈発行日〉

令和四年七月十日

#### 〈現在の会員数〉

正会員 五十四名(五十四日)  
賛助会員 十八名(二十七日)  
団体 一団体(二日)

#### 〈マイ茶碗の数〉

九千三十一個

#### 〈事務局〉

〒八二二-〇〇二六  
福岡県直方市津田町七十四  
TEL 〇九四九(三三)一三二一